





行政視察報告書

令和元年 9月 5日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 樋之津 倫子  議員 
議員  議員 
議員  議員 

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

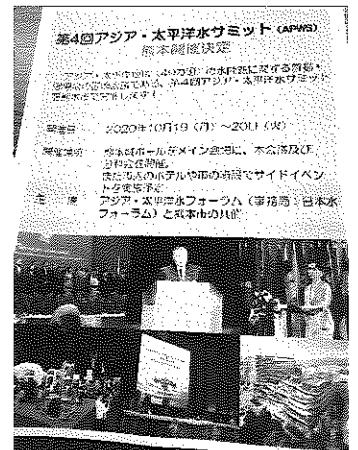
【1】 県 議会

住 所	鹿児島県佐世保市早岐1丁目6-38 早岐地区公民館
電 話	0956-38-0336
視察案件	日本カブトガニを守る会総会・研究会
期 日	令和元年8月24日(土) 15時 から 8月 25日 12時半 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	早岐公民館 海きらら水族館
概 要	別紙のとおり
添付書類	○視察資料 ○視察状況写真 ○名刺

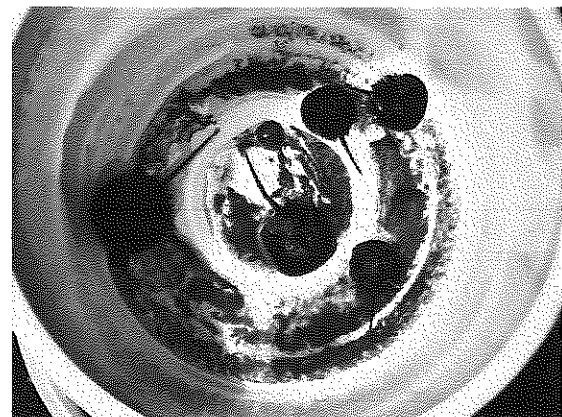
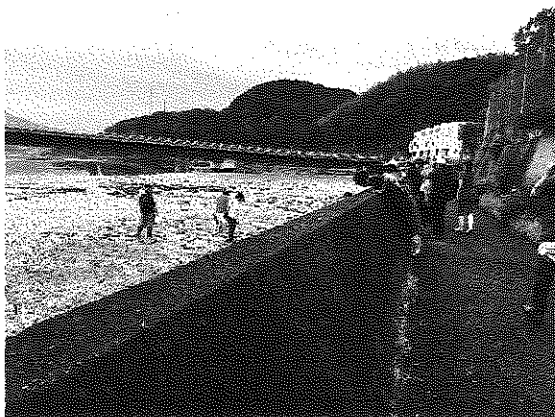
8月25日研究会



約40名が集い、各地の状況と研究内容を発表。富山大学院生の研究内容は目を引いた。(写真右)

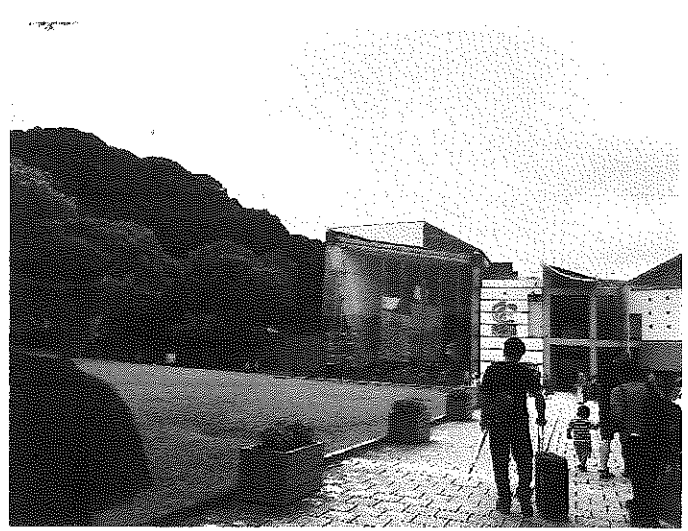


早岐公民館の前で。(写真左) 総会は前会長静岡大学伊藤教授の逝去を受け、九州大学清野教授に決まり、来年は福岡支部が総会を受ける。清野先生が実行委員長してる関係から、来年10月にあるアジア太平洋水サミットへのブース設置で環境問題訴えようと提起があった。(写真右) 写真中央は福岡支部の高橋先生。



干潟観察

26日午後、各自用意したブーツでそれぞれが干潟に入り、観察を始める。集められた要請は2, 4, 6, 7, 8令と、まるでファミリーみたいにそろった。豊かな干潟の様子がうかがえた。



左 特に去年生まれたこの2令は日にかざすと甲羅が透けて薄く見え、2-3 日前に脱皮したことがわかるものだった。

右 長崎支部の支部長が海きらら館の館長でもあったので、無料で入館でき、大浦湾の豊かな海の生物を観察することができた。

研究会で

山口 (原田さん) ★増加傾向にある。さし網に多い時で500-600匹かかった。下関では底引き網に4月中旬網に200つがい最高に、1回に30-40かかる。漁師40年間漁師してきてこんなことは初めてだと述べた。1」

★1年で870匹確認 グラフで増加の度合いがわかる。保護活動との結びつきははっきりしない。自然の変化?

★山口湾1キロ海岸調査で1000つがいを確認。これにより、県のレッドデータブック1Aから1類に変更。

★急増の理由はよくわからないが、漁民の受け止め方は、親になるまで10年かかるので、この間の海岸変化と言え、海岸工事がなかったこと。したがって地形変化、海水の汚染がなかったことなどの影響あるかも。

★多生物に変化有? 例えばアサリなど平尾町漁業資源良くなつてはいない。カブトガニの産卵場所はどこも増えている。

大分 37つがい発見 過去最高。H22から飼育。10令で全滅。餌の偏りが要因?
放流は2-3-4令で続けている。

★「20年前に比べると少ないと思うが」- さし網等盛んで邪魔者扱い。捕獲され捨てられる。その中で現状維持してきた。それからすると増加している。

四国 14令がかかった。幼生の放流。追跡調査をしている。H30(40) R1(37)確認 急に増えた。たて干し網漁が中止になったことが要因と思う。奇形について一幼生については見たことがない。卵はいろんなタイプを見て。海洋の汚染を引きずっているかも。2016年の冊子に伊藤会長が記事を載せている。

伊万里 回復の兆しあり。台風の影響は?-海岸が北向きのため大きな影響はないが7月20日前後は荒れた。昨年に続き産卵観察中止に。前半空梅雨、下旬多雨。海水の色も赤茶けてきている。夜も見づらい。アカエイが増え、タマゴ食べられてしまう。

笠岡 H30 幼生の奇形が多かった。捕獲したものを産卵させることから老齢化して弱いのかも。水温が高くなっている。6月で26-28・29度 ピークで30-31度 今年タマゴ200確認奇形なし。

福岡 (林さん) 605確認 夜のつがいの方が多い。夜の25%から30%が昼の数。去年大野川・むき川橋梁工事で砂を入れてもらった。砂を入れた後増えてきた。吉田川減った。2015年大量死300体、2016年500体

確認は20-30つがい。多くて100つがい。幼生300以上確認。都市計画道路設置工事の影

響か、昼産卵はゼロ。重機を入れるために干潟の真ん中に仮設道漂着個体多い要因は？路を作っていることも影響ある。状況はだんだんひどくなってきている。仮設道路は高さ 5m。工事後撤去というが。

漂着個体数多い要因は？－捕獲後捨てた？ 対象の 3 漁協すいそくするが・・・

長崎　メガソーラー海底ケーブル埋設工事の影響。許可前に実施。工事ありきの姿勢。産卵地にもかかわらず環境アセスもない。水の流れ変えないよう申し入れ。

富山大学院 海野 奏 さんの研究発表

富山で発見されたカブトガニの生痕化石の研究を現在生きているカブトガニの形態を研究することで解明していくという大変面白いものでした。具体的には水槽の下から水中・水なしに区分して歩行形態がどう変化するかを 1 指から 6 指まで足跡に色付けし動画の足跡を図示したものを示し、この違いによって生痕化石がどういう形態で形成されたかを解き明かすというわけだ。単純なようだがこの発想がとても面白く、興味深かった。